

消化器外科Ⅰに通院・入院されたことがある患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 切除検体を用いた網羅的糖鎖解析による肝細胞癌悪性度解析と糖鎖標的癌治療の開発

[研究責任者名・所属] 北海道大学病院 折茂 達也 消化器外科Ⅰ 助教

[研究の目的]

全タンパク質の約 60%は糖鎖修飾を受け、糖鎖がタンパク質の機能に大きく関わります。グライコプロッティング法による全自動血清糖鎖プロファイル解析装置により糖鎖の精製と構造解析ができるようになり、血液の網羅的定量解析により肝細胞癌に特異的糖鎖が存在し、肝細胞癌の悪性度ならびに予後予測に関与することを報告してきました。しかし人種、各種疾患などにより血液の糖鎖発現が異なることがわかり、血液の網羅的定量解析はこれらに影響されていることが予想されます。最近、癌細胞の転移浸潤能が特定の糖鎖発現で規定されることが、肝癌細胞株の実験から分かったため、個々の癌細胞自体の糖鎖発現と癌悪性度との関連性を研究する必要性があります。個々の切除検体の糖鎖発現解析から悪性度を予測することができれば、癌細胞に特異的な治療法選択、治療効果向上に有利であると考えられます。そこで今回の研究では、すでに切除検体、血液を用いて網羅的定量解析、糖転移酵素 GnT-V、FUT8 の免疫組織染色を行い、癌細胞の糖鎖と悪性度、予後、再発との関連性解明する予定です。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2001 年 1 月から 2011 年 12 月までに当科において肝細胞癌で肝切除術を受けた方

○利用するカルテ情報

年齢、性別、診断名、前治療の有無・内容、検査結果（血小板数、PT、アルブミン、ICG-R15 値、総ビリルビン、AFP、PIVKA-II）、術前 child-pugh 分類、肝障害度、手術術式、手術時間、出血量、輸血の有無、再発の有無、予後、画像診断結果（CT、MRI、ERCP、99mTc-GSA シンチ）、病理検査所見

○利用する生体試料

「臨床研究課題名：ヒト由来組織、細胞リソースの集積を目的とした臨床情報管理システム（Tissue Bank）」という研究にて同意を得て保管されている肝切除で得られた組織検体、血液を用います。

[研究実施期間]

実施許可日～2025年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報・試料を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北区北14条西5丁目

北海道大学病院消化器外科Ⅰ 担当医師 折茂 達也

電話 011-706-5927 FAX 011-717-7515